平成 27 年度 10 年経験者研修での取組

「性に対する正しい知識に基づき自主的な態度の育成」
～個に応じた性についての指導を通して～

養護教諭　内藤　昌代

１　はじめに

視覚障がいのある児童・生徒は視覚情報が得にくく、自ら獲得できる性情報が限られているため、性についての学ぶ場として学校教育における性に関する教育の存在は大きい。また、視覚からの情報による事物の具体的な概念形成をする機会が少なく、耳からの情報に頼りに、概念を持たない言葉の上だけの認識になりやすい傾向にある。そこで、触察して認識を補って、より具体的な教材・教具を使用することが必要になる。近年、視覚障がい者用の音声読み上げソフト等の普及やインターネット・SNS を通じ、以前に比べ情報が比較的入手しやすくなってきている。そのため、社会に氾濫する様々な性に関する情報について誤った意識や考えに陥ることなく、正しい理解と判断ができるよう、学習指導要領に基づき一人一人の障がいの状態や発達段階に即した適正な性に関する指導を行っていく必要がある。盲学校における性に関する指導は、幼・小・中・高等学校に準ずるため、児童・生徒の実態を的確に把握した上で、分かりやすい適切な指導と系統的に展開できるようにしていく必要がある。

筆者は性に関する教育の必要性は感じながらも、支援学校での経験不足や、生徒の様々な障がいの種類や発達段階に応じて、何らかの性に関する指導を実施しているものの、指導内容や指導方法が確立しておらず実践に困難を感じることがあった。

しかしながら、中・高等部では生徒の成長が著しくなるとともに、性に関する興味・関心も高まり、また、高等部では一般に進学・就職・結婚など、自分の将来について考えるようになる時期でもある。人間の成長について基礎的な理解を深めるとともに、自己の心身の発育・発達の状況について正しく認識し、性を正しく理解することが、情報や知識不足からくる必要以上の不安や悩みを軽減することにつながる。こうした問題意識に立ち、本稿では高等部で実施した授業実践を報告する。

２　授業実践

・中学部２年の総合的な学習において
　７ 月　　「男女交際について考えよう」
　12 月　　「性について考えてみよう」
　　（産休中の本校職員をゲストティーチャーに招いて）
・高等部１年の保健の授業において
　１ 月　　「性意識と性行動の選択」

１月 20 日５校時、高等部普通科１年の男子生徒１人に対して保健の授業について、研究授業及び授業研究会として行った。その学習指導案は次ページ以降に記載する。

保健体育科「保健」学習指導案

１　単元名「性意識と性行動の選択」

２　単元について

（１）　単元観

思春期は、性機能の発達と共に性意識も高まる時期である。性に関する意識が高まるこの時期に、雑誌やインターネット、スマートフォン等で情報を入手する生徒も少なくない。しかし、情報化社会に氾濫する性に関する情報の中には誤った性情報も多く含まれており、危険な性行為をあおる情報も多い。今回の学習では、性意識に関する男女の特性と、性情報が性行動の選択に及ぼす影響について理解させたい。

（２）生徒観（在籍１名）

男子生徒１名は弱視であり、中学部から本校に在籍している。レーベル病と診断されており、中心が見えにくい。遠距離視力は両眼 0.03 で近距離視力は右眼 0.08 左眼 0.06 である。学習では、22 または 26 ポイントの拡大教科書、ワークシートは 22 ポイントを使用している。漢字の字体や地図帳など表示が細かな資料は、拡大読書器やルーペといった視覚補助具を使用し、必要に応じて見やすい状況を作りながら学習に取り組む姿が見られる。学校での学習では、教師と１対１の授業がほとんどである。交友関係では、少人数の学校ということもあり、同年代の異年齢とのかかわりでは、「先輩・後輩」といった関係よりも、友達のつながりでかかわる姿を見ることが多い。また、平日は寄宿舎で過ごし、小学生から成人まで幅広い年齢層と共に自立に向けて生活をしている。

（３）系統観

高等学校の保健では「現代社会と健康」「生涯を通じる健康」「社会生活と健康」の３単元を学習する。「生涯を通じる健康」では、生涯にわたって健康を保持増進するには、生涯の各段階の健康課題に応じた自己の健康管理及び環境づくりが関わってくることや思春期や結婚後の妊娠・出産、加齢の問題、医療制度・保健サービスの内容などの正しい知識を獲得し、健康課題に対して適切な意思決定・行動選択ができるように求められている。また、３年時には、科目「社会と情報」単元「情報社会と情報モラル」で情報モラルに関する内容を学習する。

（４）指導観

ア　性意識の男女差については、異性への関心と性的欲求の強さを参考に男女の特性を述べ、男女差に関する誤解による問題やそれを防止するための留意点を具体的に挙げることができるようにしたい。

イ　性に関する情報の影響では、高校生の主たる情報の特徴を挙げ、それらが性行動に与える影響について例を挙げて説明することができるようにしたい。特に雑誌やネットによる情報だけでは危険が多く、必ず、医療機関や学校の先生方に相談するなどして、的確なアドバイスを得ることが重要であることをしっかり理解させたい。

ウ　思春期の子ども達に関心が高く、信じてしまいそうな性に関する質問事項を挙

げる。ネット上に流出している性情報は、誤った情報が多いことを理解させるための資料として、【大人になっていく思春期の性の悩みQ&A・北村邦夫著・健学社出版】を使用する。

3　単元の目標と評価基準

単元の目標	性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて理解し、説明することができる。		
評価基準	関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
	性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて、課題の解決に向けて話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて学習したことを個人及び社会生活や事例などと比較したり、分類したりするなどしている。また、筋道を立ててそれらを説明している。	性意識の男女差、性に関する情報が性行動の選択に影響を及ぼすことについて理解するとともに、自分の行動への責任感や異性を尊重する態度が必要であることを理解している。

4　指導計画（計 10 時間）

大単元	小単元	単元の目標	時数
生涯を通じる健康	1．思春期と健康	・思春期の特徴について健康面を中心に理解する。	1
	2．性意識と性行動の選択	**・性意識に関する男女の特性、性情報が性行動の選択に及ぼす影響とその対処法について理解する。**	**1（本時）**
	3．結婚生活と健康	・健康な結婚の条件と結婚生活における男女の役割について理解する。	1
	4．妊娠・出産と健康	・受精・妊娠・出産の一連の過程を学習し、胎児や母親の心身の健康問題、予防や健康のための支援について理解する。	1
	5．家族計画と人工妊娠中絶	・家族計画（妊娠のコントロール）の意義や方法について理解する。	1

	６．加齢と健康	・加齢に伴う心身の健康を自分のこととしてイメージしながら理解する。	1
	７．高齢者のための社会的とりくみ	・高齢者の心身の健康を支援するための社会的対策について理解する。	1
	８．保健制度と保健サービスの活用	・さまざまな保健制度のしくみを理解し、それらを自分にかかわる問題として意識付ける。	1
	９．医療制度と医療	・医療費の実態と医療制度のしくみを理解する。	1
	10.医療機関と医療サービスの活用	・医療機関にはさまざまな役割があり、それらが有機的に関連していることを理解する。	1

５　本時の学習

（１）　目標

性意識に関する男女の特性、性情報が性行動の選択に及ぼす影響とその対処法を理解する。

（２）展開

過程	時間	学習内容及び活動	教師の支援・留意点	備考
導入	５分	１．男女差とは 〇「男女差」と聞いて、どのような差を思い浮かべるか考える。 ・教科書P66－3,66-4の図１と図２を見て男女の性意識の違いについて考える。	・教科書は閉じた状態で考え、発表を促す。 ・性に対する意識や考え方は、男女によって大きな差があることを確認する。 ・個人差にもふれる。	ワークシート 教科書 アンケート結果
展開	40分	２.性意識の男女差と性的欲求 〇セクシュアルハラスメントと思われるような行為にはどのようなものがあるか考える。 ・異性と良好な関係を築くために必要なことをまとめる。 ３．性に関する情報と性行動	・言葉によるものと行動によるものとに分けて考え発表を促す。 ・ストーカー行為、DV にもふれる。 ・教科書 P66－5 を読みワークシートにまとめるように説明する。	ワークシート 教科書 性に関するクイズ パワーポイント
	学習課題：性情報の入手方法について考えてみよう。			

		・性の理解度をテストで確認する。 〇あなたは性情報をどうやって入手していますか？ ・入手方法を発表する。 ・信頼できる性情報とはどのようなものか考える。	・あまり深く考えず、今ある知識で答えるように説明する。 ・教科書 P67-3 の図３を見て考えるように確認する。 ・入手方法として信じるものは何かまたその理由についても発表を促す。 ・高校生が得やすい性情報の中には、誤ったものや単に興味をそそるだけのものがあることを確認する。 ・性情報は雑誌やネット上の情報だけではなく、学校や病院で的確にアドバイスを受けることが大切であることを確認する。 ・誤った性情報に惑わされないことを強調する。	教科書 性に関するクイズ パワーポイント 教科書 ワーク シート
まとめ	５分	４．まとめ 〇「みんなはもう経験しているから」などのように、周囲の情報に影響されて性行動に走ることについてどう考えるか発表する。	・様々な性情報に左右されることなく、自分の考えを持って意思決定・行動選択していくことが大切であることを最後にまとめる。	ワーク シート 教科書

※ワークシートについては省略

授業後の研究会では、次のようなことが協議された。

（１）「周囲の情報を得る機会が少ない（得たとしても複数ではない）生徒たちに、どのように具体例を示すのか」ということについて

性情報の入手はインターネットやSNS、雑誌による入手方法が多く見られる傾向から、中高生から発信される性情報をもとに性の理解度テストを実施し科学的に考える機会とした。性情報だけでなく「情報」の入手方法の信憑性を客観的に考えるには、情報モラルの観点からも継続的な学習や外部講師を招いての講演等も必要ではないか。

（２）同年代の意識や意見をアンケート調査から全国、県、本校と比較し提示したことについて

本校の結果は生徒数が少なく個人が特定されやすいため、必要に応じて口頭でプ

ライバシーに配慮し説明を加えた。自分たちとの比較だけでは気づかない部分や実態に足りないところをデータ等で補充する必要がある。同じ質問項目を同一人物に取った場合、中学時代と高校生になってからでは変化があるなどの自分のこととして気づかせる指導の工夫も大切にして欲しいとの意見も出された。

（３）「分かりやすい説明・教材の工夫」について

１対１の授業では、どうしても教師が話す場面が多くなってしまうので、言葉を絞って発問することが大事である。言葉として知っている語彙もそれをどのような場面で使うか意味を理解できているかがわからない。教師の言語力を磨いていく必要があるだろう。また、視覚に障がいのある生徒達にとって、教師の言葉は貴重な情報源である。聞き取りやすい声量で簡潔明瞭に話す、綺麗な言葉遣いをする、難解な語句は平易なものに置き換えることが大切である。

資料の工夫では、見えやすい条件を整えて、適切な大きさの文字やフォントを本人に確認し作成した。また、正確に認識するために、内容や操作など単純化し、理解しやすいようにグラフの比較も盛り込む情報も必要最小限にとどめ、余分な部分は省き説明を加えるように心掛けた。保有する感覚を活用できるように、天候や授業時間の照度等にも配慮する必要があるとの意見が出された。

３　成果と課題

今回の研究授業を通して、本校生徒の性に関する実態を知る機会となった。保健室では見ることのない生徒の姿や生の声を聞くことができ、生徒理解を進めていく中で大きな成果であったと思う。生徒たちは、個人差はあっても性に関する興味、関心や悩みなどを持っている。そのことについて学習を進めることができたこと、授業での学習内容の理解面だけでなく、関心度、意欲の表れ、学習姿勢や家庭状況等を再確認できたことは生徒との距離が短くなり、信頼関係作りに役立ったと感じている。

授業後の行動選択につながる考え方の変容を見るため授業前後にアンケートを実施した。授業前「中高生の性的接触についてどう思うか」にどちらかと言えばよいと思うに選択。授業後では「みんなが経験したとかは関係なく今、性行動をとるべきかを自分で考えたい。」との感想があった。中学部の生徒に実施した授業でも産休中の職員の話や養護教諭の事例を真剣に聞く姿があり、今後は養護教諭の立場だけでなく、女性として考えや思いなども伝えていければと思う。

４　おわりに

今回弱視の生徒を中心に授業実践を行ったが、視覚障がい教育においては、やはり触覚を活用し実体験を積ませる指導法が採られる。具体的体験を通して言語と対象となる事物を関連づけ、自分なりのイメージを作りあげる。教科指導においても積極的に触覚を活用した指導が行われていても、性に関する指導の場面で「触れる」行為がトラブルを引き起こす原因と捉えられることもある。

しかし、触覚の感覚を活かす実践ができれば、他者との関わり方を学ぶと同時に、自己の身体感覚を引き出し、自己の感覚を大切にできる自己肯定感をも育むことが可能ではないかと考える。また教師間で連携を図り、体系的な指導が行えるようにしたい。